

磐田を 知りたい！ 調べたい！

磐田の古道

磐田市は東海道の通過点。古くから東西の情報が行き交う接点でもありました。また、東西だけではなく、南北の道も交わり、物資の集積地でもありました。

今日使われている「〇〇街道」は、明治時代に行政上付けられた名称です。一般には「〇〇往還（おうかん）」と呼んでいました。

1. 東海道

古代には、東海道の「道」は道路を意味する語ではなく、国の集まりを表していました。その後、国と国の通信網を「道」と呼ぶようになり、今日の東海道に繋がっています。

奈良～平安時代中期あたりまでは現在の磐田駅北側から遠江国分寺公園東側を通り、見付宿場通りを通過していました。国府が見付に移転し、国分寺が廃れると、中世には見付から池田方面への道を使うようになります。これが近世にはいり、「姫街道」と呼ばれる道となります。江戸時代になり中泉に陣屋がつくられると、再び東海道は磐田駅北側を通過するようになります。

『東海道 小夜の中山』、『静岡県歴史の道 東海道』
『遠州地方の交通発達史』 p 17～

2. 姫街道

「姫街道」は磐田市見付と愛知県の御油（ごゆ）を結ぶ街道で、「本坂通り」とか「本坂越え」などと呼ばれています。いわゆる、脇街道とされ浜名湖の北岸を通って下京するルートです。

「姫」様が通ったという説や、「秘め」＝「抜け道」転じて「姫」となったという説もあります。

『静岡県歴史の道 姫街道』

3. 高塚新道

明治時代、向笠の高塚太郎平（たろべい）氏が私財を投じ、現在の浜松市笠井町から磐田市向笠を経由し、袋井市へ通じる道を作ったことで知られています。この頃、笠井町は蚕糸（さんし）、紡織（ぼうしょく）が盛んで、大きな市場がありました。それを天竜川で南下させる流通ではなく、太郎平は道を作り地元向笠だけでなく、更に東へ向け流通を広げようとしたのです。

「磐南文化」第 23・25・29 号、『高塚新道』『赤土は語る 明治の労苦 高塚新道』
『磐南の暮らしを支えた文化財』 p 137

4. 掛塚、福田へ

掛塚街道	浜松市相生町から芳川、河輪を経て掛塚へ至る道
村上（袴田）街道	中泉往還のうち豊岡公園前の県道から十郎島県道への 曲線道路を私財を投じて直線道路に改良
軍用道路	戦時中、磐田駅から「明野陸軍飛行場」へ通じた道
横須賀街道	旧横須賀藩と中泉陣屋を結んだ道。福田町は旧横須賀藩。
中泉街道	横須賀街道と同道。

『遠州地方の交通発達史』 p 35～

5. そのほかの古道

秋葉道（あきはみち）

秋葉神社（江戸時代は秋葉寺）を終着点として網目状に広がった信仰道。

『静岡県歴史の道 秋葉街道』

『遠州地方の交通発達史』 p 37～

二俣街道（往還）

天竜川を挟んで、磐田側と浜松側にある旧天竜市二俣町へ通じる街道です。

もともとは、秋葉道の主要道と思われます。

このほか、詳細にお知りになりたいときには、レファレンス（相談）カウンターまでお尋ねください。